

東京都公立小学校における校庭芝生化の現状
-A 小学校を事例として-
Current state of the grass-playground in public elementary school in Tokyo
-A case study of A elementary school-

1K09A027-7
指導教員 主査 間野義之 先生

石田 悠太
副査 木村和彦 先生

【緒言】

校庭の芝生化とは、小学校や中学校の校庭のサーフェスを芝生化しようという取り組みである。

校庭の芝生化について文部科学省(2010)は「芝生の弾力性がスポーツ活動に安全性と多様性をもたらす」、「環境教育の生きた教材として活用できる」、「強風時における砂塵の飛散防止」、「降雨時における土砂の流出防止」、「夏季における照り返しや気温上昇の抑制」、「幼児から高齢者までの様々なスポーツを安全かつ快適に実施できる」などの教育上の効果をあげ、校庭の芝生化に対して補助を行っている。

公立学校(小学校・中学校・高等学校・中等教育学校)のうち、芝生化整備校は、平成17年度から平成21年度にかけて、1291校から1746校に増加した。

【研究目的】

本研究では、東京都における公立小中学校の校庭芝生化の推進を目指し、芝生化整備校数などのデータ、芝生化の成功例・失敗例、芝生化するにあたっての問題点、芝生化前後の子供達の反応、維持管理について、インタビューを踏まえ、東京都の校庭芝生化の現状を明らかにすることと校庭芝生化における成功モデルを紹介する。

【研究方法】

本研究では、東京都内における公立小学校(以下、A小学校)に対してインタビュー調査を行った。

【研究結果】

インタビュー調査の結果、校庭芝生化実現のためには主に①芝生化前後の子供たちの反応、②維持・管理について、③今後の課題の3つが校庭芝生化におけるポイントとなる。

また、A小学校ではもともと「いのちの学習」という児童1人1人が「かけがえのない自分のいのち」に最大の価値を見出し、自尊感情・自己有用感を高め、自らのいのちを輝かせるために、生涯学び続けようという強い意志を喚起する学習活動が行われていた。その学習活動と校庭の芝生を重ね合わせ、児童が毎日生活する校庭を「いのちの学習」の一環としての体験的活動ができる「学習の場」とすることができれば、一層の教育的効果があると考えられていたため、校庭の芝生化がスムーズに進んだという。

【考察】

(1) 芝生化前後での子供たちの反応

校庭の芝生化の前後では、芝生化におけるメリットである①怪我の軽減、②活発になる、③体力向上、④情緒面などが、より子供に好影響を与えるということがわかった。

校庭芝生化は、結果論ではなく、芝生化後に子供たちにどういった影響を与えることができるのかといったビジョンを持って、実施するのがより効果的なのではないかな。

(2) 維持・管理体制

A小学校では、維持・管理において芝刈りの当番制を敷いていない。A小学校周辺の地域の方々や国立競技場にも校庭芝生化の協力をお願いし、了承を得た。そうして、周りの方を巻き込みながら計画を進めていき、当番制ではなく、個々が自ら率先して芝生の維持・管理に努めるという形を創り上げた。今後も、校庭や学校周辺の自然を地域・学校での共有財産として、みんなで使い、守り、育てるという心で、何年にもわたって、大事に育て、広く利用・活用していくという。校庭芝生化を進めていく中で、この「地域」という言葉は1つのキーワードとして注目すべきものだろう。

(3) 今後の課題

校庭芝生化のデメリットとして、芝生の養生期間はグラウンドが使えないという点がある。そこでA小学校では芝生の養生期間中、近くのフットサルコートを借りて、体育の授業を行っている。

さらに、芝生のグラウンドならではの遊びも取り入れていくという。現時点でA小学校では、バランスボールが使われているが、これも芝生のグラウンドならではの遊びである。

(4) 校庭芝生化成功モデル

校庭芝生化の成功モデルとしてはA小学校が当てはまると考えられる。というのも、A小学校へのインタビューで芝生化に関して、苦勞している点がまったく見受けられなかった。むしろ芝生化後、子供たちはより外で遊ぶようになり、情緒面でも安定している。さらに、維持・管理においてもうまく機能しており、芝生化のデメリットをプラスに考えて、新しい取り組みを始めてみようとしている。